

県内における茶関係資料

1 本県茶生産の特徴

・丹沢や箱根山麓一帯の気候・風土がお茶の生産に適し、良質な茶を生産できることから、県西、県央地域の中山間地を中心に、味と香りの「足柄茶」として県民に親しまれている。最近では、愛川町、中井町、開成町等で機械化栽培が可能な平坦地を中心に、新たな産地育成も進んでいる。

・「足柄茶」は、平成4年に県「**かながわブランド**」に選定されたほか、平成18年に食品産業センターの地域食品ブランド制度「**本場の本物**※」の認定を受け、平成19年には県内農産物で初めて地域団体商標に登録された。また「**かながわの名産100選**」にも選ばれている。

※その土地土地において伝統的に培われた「本場」の製法で、地域特有の食材などの厳選原料を用いて「本物」の味をつくり続ける、そんな製造者の【原料】と【製法】へのこだわりの証となる。



【茶栽培面積(平成28年)】

都道府県	静岡	鹿児島	三重	京都	福岡	神奈川	全国
栽培面積順位	1	2	3	4	5	18	—
栽培面積(ha)	17,400	8,520	3,000	1,580	1,550	257	43,100

農林水産統計年報

2 (株) 神奈川県農協茶業センター

- ・県内の荒茶工場で作られた荒茶を一元集荷、仕上げ加工し、統一ブランド名「足柄茶」で販売している。これは全国でも珍しく、生産者の安定経営に寄与している。
- ・平成27年度から足柄茶を使用したリシール缶「ほうじ茶」とティーバッグ「箱根山麓紅茶」の販売を開始し、平成30年度からリシール缶「箱根山麓紅茶」の販売も開始した。「ほうじ茶」は、深い香りとはんのりした甘みが特徴で、「箱根山麓紅茶」は、苦味が少なく、うまみがあり、飲みやすいのが特徴。

【茶業センターの年間荒茶取扱量】

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
取扱量(t)	130	123	115	95	104	138



ほうじ茶
(リシール缶)



箱根山麓紅茶
(ティーバッグ)



箱根山麓紅茶
(リシール缶)

3 足柄茶ファームオーナー

- ・平成30年度から(株)神奈川県農協茶業センターが、足柄茶のオーナー制度「足柄茶ファームオーナー」を開始した。一口あたり茶畑1坪で年会費は15,000円。オーナーには、年4回新茶や紅茶などが届くほか茶摘み体験等の特典がある。